

福島第一原子力発電所 福島復興へ向けた地元とのコミュニケーション の取り組み状況

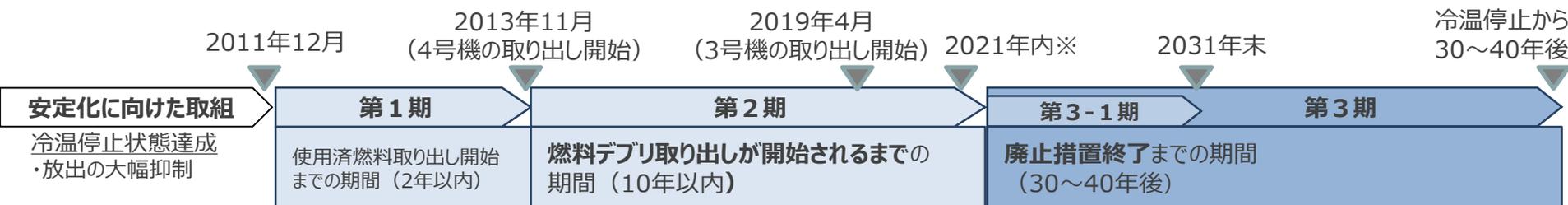
2021年10月31日

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
バイスプレジデント

阿部 俊一

1. 福島第一原子力発電所の廃炉作業の概要と進捗

中長期ロードマップ[°]（政府2019年12月27日）



※新型コロナウイルスの影響による試験的取り出し機器の開発遅延を最小限にして1年程度に留められるように努める。

廃炉中長期実行プラン2021（東京電力2021年3月25日）



今後の主要な作業プロセス

○汚染水対策

- ・(至近)原子炉建屋滞留水を2020年末の半分程度に低減（2022～2024年度）

○プール燃料取り出し

- ・(至近)1号機大型カバー（瓦礫ダスト飛散抑制）の設置完了（2023年度頃）

○燃料デブリ取り出し

- ・(至近)初号機（2号機）の燃料デブリの取り出し開始

○廃棄物対策

- ・(至近)ガレキ等の屋外一時保管の解消（2028年度内）

○その他対策（自然災害対策）

- ・(至近)日本海溝津波防波堤の設置

2. 復興と廃炉の両立に向けた福島の方々への『お約束』

福島第一原子力発電所は、これまで目の前のトラブル対応に注力

現在は現場も落ち着き、計画的な作業が可能になったことから、
廃炉中長期実行プランと合わせて公表(2020年3月)



福島復興を加速していくには、この地で廃炉関連産業が活性化し、雇用や技術が生まれ、その成果が他の地域や産業に広がることが重要

ひらく

地域の皆さまにとって、
もっとひらかれた
廃炉の現場に

- 事業見通しの積極的な公開
- オープンな参入環境の整備

つくる

地域の一員として、
地域の未来づくりに

- 地元経済の基盤創造
- 人材育成

やり遂げる

地域の安全・安心
を最優先に

- 計画的な廃炉
- 地域の安全・安心の確保

4. (ひらく)事業見通しの積極的な公開 取り組み状況

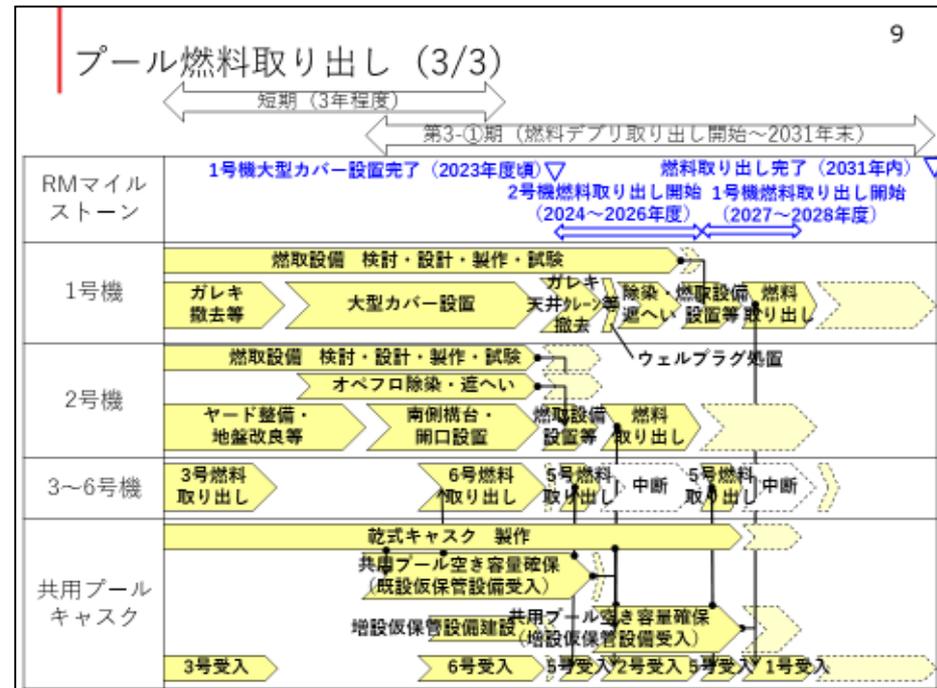
地元企業の皆さまを対象として、福島第一廃炉事業にご参画しやすくなることを目的とした廃炉中長期発注見通しの説明会を開催

廃炉中長期発注見通し説明会

- 「廃炉中長期実行プラン2020」では、向こう10年程度の廃炉全体の主要な作業プロセスを公開

ひらく

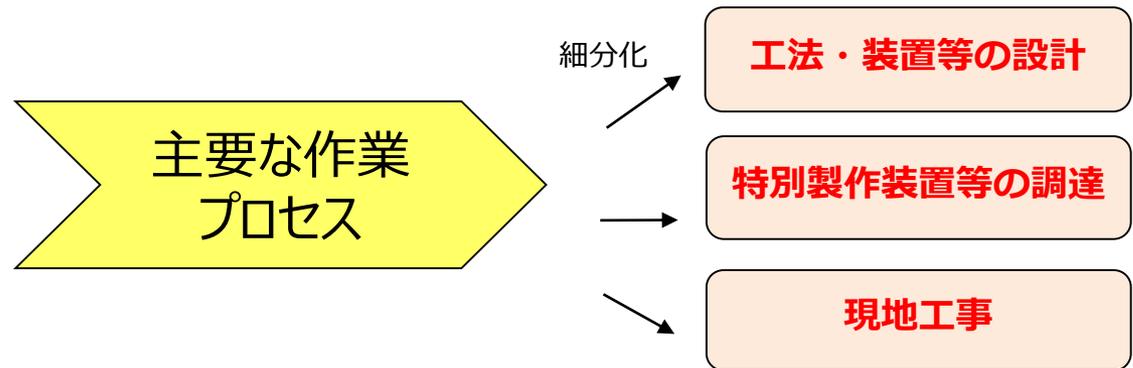
事業見通しの積極的な公開



廃炉全体の主要な作業プロセス
(例. プール燃料取り出し)

廃炉中長期発注見通し説明会

- 主要な作業プロセスひとつひとつに対して必要な調達内容がみえてきたものから細分化してご説明



- 2020年度から元請企業・商工会説明会を実施



2020.9・2021.3 (元請企業2回)



2020.12・2021.5 (商工会6回)

ひらく

事業見通しの積極的な公開

5. (ひらく)オープンな参入環境の整備 取り組み状況

「福島第一廃炉産業関連マッチングサポート事務局」を開設(2020年7月)

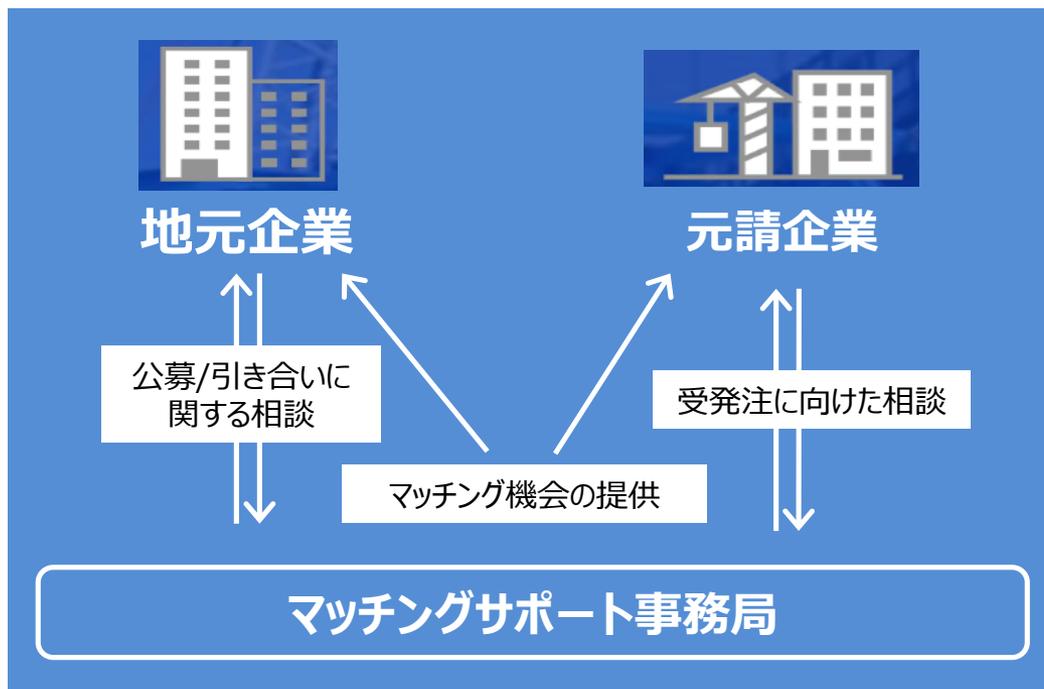
- ✓ (公財) 福島イノベーション・コースト構想推進機構
- ✓ (公財) 福島相双復興推進機構
- ✓ 東京電力HD (株)

マッチングサポート事務局活動

- 福島第一廃炉事業に関心のある地元企業と廃炉作業の元請企業を効果的につなぐため、各企業の状況に応じて総合的な支援活動を展開。

ひらく

オープンな
参入環境
の整備



5. (ひらく)オープンな参入環境の整備 取り組み状況

福島第一廃炉事業へ参入意欲がある地元企業を対象に、当社や元請企業との関係構築や具体的業務の商談を目的に、地元企業商談会を開催

地元企業商談会

ひらく

オープンな
参入環境
の整備



2019.12
角型容器製造
3社受注



2020.2
分電盤取付
4社が取引先登録



2020.10
大型製缶品の機械加工他2案件
1社が内定(2021.4時点)



2021.3
防潮堤補強土壁の鉄筋納入
1社が内定(2021.4時点)

6. (つくる)人財育成 取り組み状況

廃炉関連の研究を行う学術機関や大学に対し、廃炉の現場をフィールドとして積極的に提供し、福島から世界に誇る人材・技術の輩出に向けて貢献

産学連携

つくる 人財育成	大学	<ul style="list-style-type: none">東京大学、東京工業大学、東北大学、福島大学
	主な研究 テーマ	<ul style="list-style-type: none">燃料デブリの形状推定手法放射性固形廃棄物の分析・減容・固形化表面除染技術と鉄骨構造物の切断技術放射性物質の分離・計測 など
	研究活動	<ul style="list-style-type: none">当社技術者と大学の専門家・学生による議論を通じて、現場ニーズと各大学のもつ研究技術をマッチングさせて、研究テーマを決定当社技術者と対話することで相互理解・研究活性化廃炉で働く技術者、執務環境、実際の設備等を身近に実感

6. (つくる)人財育成 取り組み状況

研究活動を通じて福島第一の現状及び取組みを知っていただき、
廃炉事業への興味を持っていただく

産学連携

- 2020年度末には大学毎にオンライン報告会を実施



専門家による発表の様子



学生による発表の様子

つくる

人財育成

研究活動

1 F 現場視察

【ご視察者実績】

延べ86,417名 (2011年4月～2021年7月)

福島県の皆さま対象
視察・座談会

2019年度より浜通り13市町村を対象に開催。
2021年度は福島県内に拡大予定

ご視察 (現場確認)

+

座談会 (対話)



【地域の皆さまへのご案内】

東京電力ホールディングス様主催
福島第一原子力発電所
視察・座談会

廃炉って何？デブリって？汚染水って？
そんな皆さまの疑問を解決するために、廃炉と関係の見える、
福島第一原子力発電所構内の視察、質疑応答、座談会を開催
いたします。

ぜひ、福島第一原子力発電所構内の最新状況を直接ご覧頂き
皆さまの廃炉に関するご疑問・ご意見を伺いお聞かせください。

◎日時	◎スケジュール (予定)
2021年11月20日 (土)	12:30 廃炉資料館 (富岡町) 集合・見学
2022年 1月15日 (土)	14:10 福島第一原子力発電所 視察
2022年 3月12日 (土)	15:50 質疑応答・座談会 16:50 解散 (廃炉資料館)

※申し込みを希望される方は東電までご確認ください。
※新型コロナウイルスの感染状況により、スケジュールの変更または中止となる
可能性がありますので、予めご了承ください。

やり
遂
げ
る

視察
座談会

2021年度
開催
予定

- ・2021年10月16日 (土) 浜通り13市町村以外
- ・2021年11月20日 (土) 浜通り13市町村
- ・2022年 1月15日 (土) 浜通り13市町村
- ・2022年 3月12日 (土) 浜通り13市町村

【参加者数】
延べ6回188名
(2019/10～2021/7)

視察・座談会では、廃炉作業へのお褒めや感想のお言葉、ご意見やご要望など、様々なお声を頂いております

視察・座談会参加者の声

やり
遂
げ
る

お褒め

- 私服のまま視察出来ることに正直驚いた。
- タンクの2重の堰やフェーシング等、報道されていない安全対策も確認できて大変参考になった。

感想

- 今回のような形で住民の視察が出来るのは大きい。
- テレビでみるのと現場をみるのではスケールが違う。
- まずは興味を持ってもらうことが重要と思った。特に若い方に知ってもらうことが重要。

意見
要望

- 現場の状況が全く伝わっていない。もっと工夫して伝えるべき。
- 処理水で魚を飼って問題あるかどうか、実験してみてもどうか。
- 全国的に処理水の課題や安全性を訴えないと、風評被害は避けられない。

コロナ禍の今は、Webで公開しているバーチャルツアー動画をつかってWebexで視察者と案内者をネットでつなぎオンライン視察を開催しています



バーチャルツアー

オンライン視察

- 家や学校で福島第一構内をバスから見ているような映像が流れご案内



- オンライン視察では、なかなか視察できない場所も紹介



原子炉圧力容器内

やり
遂
げる

オンライン
視察者

延べ16回
509名

(2020.8
～2021.8)

6. (やり遂げる)地域の安全・安心の確保の取り組み

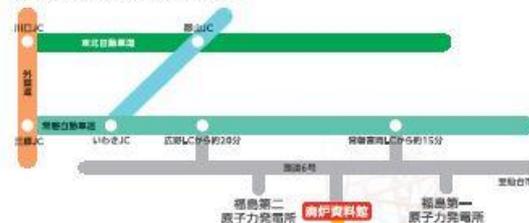
福島第一原子力発電所事故の事実と廃炉事業の現状等をご確認いただける場として、「東京電力廃炉資料館」を開館

【来館者実績】
71,740 名
(2018年11月30日～2021年10月6日)



アクセス

●バス・乗用車ご利用の場合



●JR線ご利用の場合



●JR常磐線 富岡駅からのアクセス



施設概要

名称	東京電力廃炉資料館
所在地	福島県双葉郡富岡町大字小浜字中央378番地 (旧エネルギー館)
電話番号	0120-502-957
開館情報	開館時間: 9:30～16:30 休館日: 毎月第3日曜日・年末年始 入館料: 無料(駐車場無料)

廃炉事業の進捗をホームページやSNSで国内外に発信しています

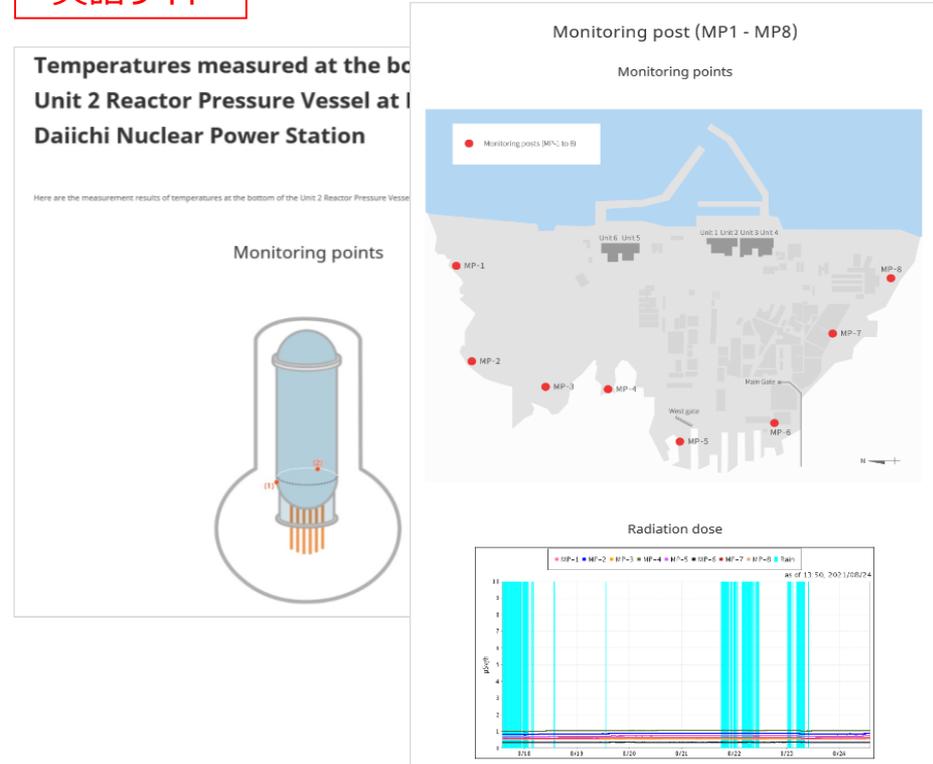
(例) 処理水ポータルサイト
 ～ 処理水の現状や社会の関心にお応えします ～

発電所のプラントデータや周辺の
 放射性物質の分析結果を公開

日本語サイト



英語サイト



廃炉情報誌 「はいろみち」

- ◆ 廃炉事業の進捗を報告
廃炉事業に関わる人の廃炉事業への思いを伝える

◆ 発行：2017年4月創刊
隔月発行

◆ 配布：周辺住民の皆さまへ各戸配布、
ご視察者さま、
協力企業、
政府関係機関、
学校関係等

◆ 部数：60,000部発行

こちらよりご覧いただけます

ご清聴ありがとうございました。

- これまで東京や海外へ発注していた**廃炉の中核技術・製品**について、将来的には**浜通りで開発・製造**し、**地元経済の中長期的な柱**とすることを目指します。
- その実現に向け、当社が主体となり、**高度技術を持つ県外企業の誘致**を図ると共に、**地元企業と緊密な連携**を図り、地域の雇用創出、人材育成、産業・経済基盤の創造等に貢献してまいります。

【廃炉事業の基本的な流れ】



【主な実施個所】



将来

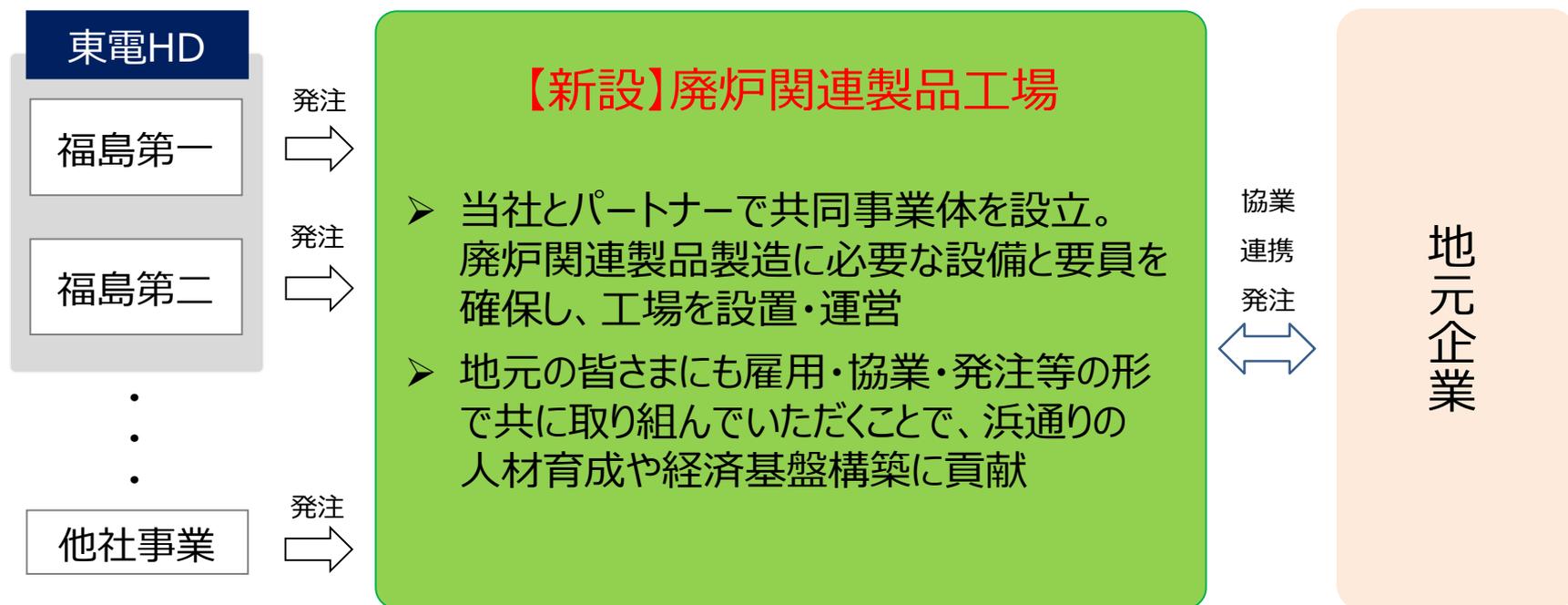
原則として、すべて浜通りで一貫して実施

- 浜通りでの一貫実施体制整備に向け、**2020年代に以下の廃炉関連施設の設置を予定**しております。
- これら施設の建設・運用による浜通りへの**経済効果等**は以下の通り見込んでおります。
 【建設時】 総投資額：約5,000億円 工事従事者：平均約300人/日 最盛期約1,000人/日
 【運用時】 浜通りへの経済効果：約200～300億円/年 雇用創出：約300人/年

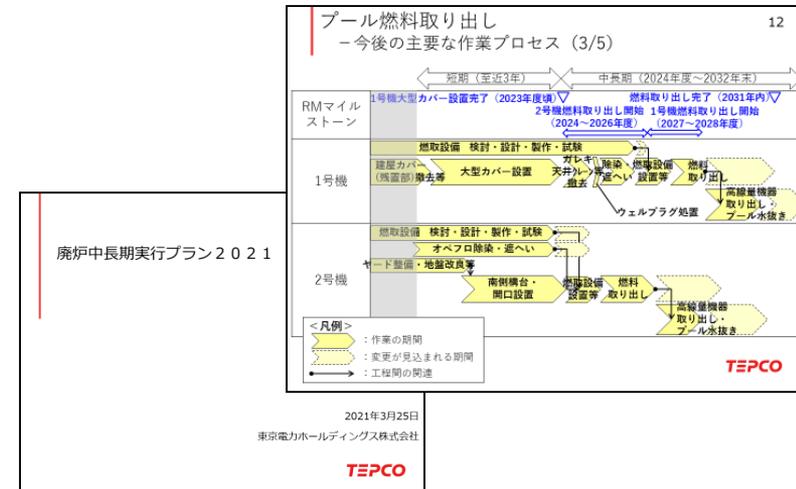
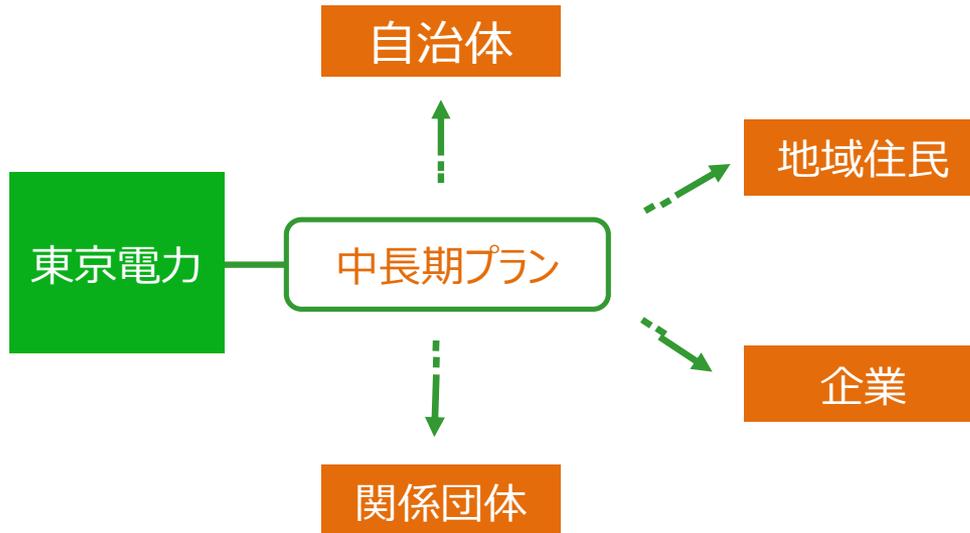
工程	施設名	施設概要	設置時期	想定立地
開発/設計	技術開発・放射線分析関連施設	● 今後の廃炉に必要な技術開発や、幅広い試料の放射線分析を行う施設	2020年代中盤	福島第一/ 福島第二 構内もしくは近隣
製造	廃炉関連製品工場	● 福島第一、福島第二で必要となる廃炉関連製品を製造する工場 ※詳細次頁	2020年代中盤	
運用	デブリ取出し建屋・メンテナンス施設	● デブリ取出用セル等を設置する建屋/デブリ取出装置のメンテナンスを行う施設	2020年代後半	
保管	福島第二使用済燃料乾式貯蔵施設	● 福島第二燃料プールから取り出した使用済燃料を、一時的に保管する施設	2020年代後半	
保管リサイクル	金属溶融・廃棄物関連施設	● 汚染金属を除染・減容化する設備、固体廃棄物を切断・破砕する減容施設、各種廃棄物を保管する貯蔵施設等	2020年代中盤～後半	

※主要施設のみ記載

- **地元での「製造」**について、これまで**県外製造**とせざるを得なかった**高機能製品**について、**中長期的に浜通りで生産**していくため、**立地地域での廃炉関連製品工場の建設・運営**を目指します。
- 建設・運営にあたっては、**当社の考えに共感**いただき、かつ**原子力関連における実績のあるメーカーと共同事業体設立**を基本とします。また、**地元の皆さまとも、雇用・協業・発注等**のあらゆる面で、ぜひ共に取り組んでまいりたいと考えております。
- 共同事業体のパートナーについては公募選定中であり、決定次第お知らせします。



- 福島第一原子力発電所は、事故後切迫した状況が続き目の前のトラブル対応に追われていましたが、現在は現場も安定し、今後の見通しをより具体的に考える時期にきています。また、福島第二原子力発電所も廃炉を決定し、進め方を検討している段階です。
- 廃炉に向けたこれからの道のりは、地域の住民・企業の皆さまにとって、これまで以上に重要な位置づけになると考えております。
- 私たちは、今後とも廃炉を安全・着実に進めるためのプランを作成・更新し、皆さまにお知らせした上で、より計画的に作業を進めてまいります。



廃炉中長期実行プラン2021
2021年3月公表
(例. プール燃料取り出し)